

スノーシュー履いて世界遺産でスノーゲイン・・・進化させて今年で3年目

2013年3月2日-3日 岐阜県白川郷
白川郷スノーゲイン 2013



世界遺産の村

岐阜県飛騨地方にある白川郷は、富山県の五箇山とともに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として、1995年12月にユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録され、日本では6件目の世界遺産となりました。

今回、スノーゲインの会場となったトヨタ白川郷自然学校が位置する白川村・馬狩地区は、大変な豪雪地帯で、その生活の厳しさから住民達が集団離村した地区です。1973年にトヨタ自動車はこの土地を購入し、従業員の保養施設として保全してきましたが、白川郷合掌集落の世界遺産登録や京都議定書、愛・地球博等を背景とした環境意識の高まりを受け、この地を自然体験型の環境教育フィールドとして活用したいという思いが、2005年に「トヨタ白川郷自然学校」という形で実現したものです。

運営は、白川村、環境関連NGO、トヨタ自動車から成るNPO法人白川郷自然共生フォーラム（以下、フォーラム）が担っており、行政、NGO、企業が三位一体となって「日本一美しい村に日本一の自然学校」を合言葉に、運営に取り組んでおられます。自然学校の滞在を通じて「共生」の想いを共有していただくため、地域の自然・伝統文化を

体験できるプログラムのほかに、自然の恵みを活かしたフランス料理、日頃の疲れを癒す温泉や満天の星空、そして合掌をモチーフにデザインされた温もり溢れる宿泊施設があります。

冬場の利用促進イベント

このような恵まれた地にある施設ですが、さすがに冬の季節は宿泊者が少なくなる時期であり、さらに合掌造りのライトアップが終了し、雪解けが始まるまでの2月末から3月にかけては、特に閑散期となります。そのため、フォーラムの職員の方から、この時期だからこそ体験できるイベントとして「スノーゲイン」実施の打診があったのは、2010年の夏でした。その後、その晩秋に岐阜県協会でも地図作成を行い、第1回目となる「スノーゲイン 2011」を2011年3月6日に主管し開催することとなりました。

手さぐり状態から

そもそも「スノーゲイン」は当時、菅平で実施されていたものの他に例がなく、当協会としてもどのような人を対象に、どの程度の規模で行うのか、また、雪上での走行においてロゲイニングとして、どの程度のエリアや危機

管理上の時間制限を何分が良いかなど初めての経験に手探り状況でした。

2年前の経験

「スノーゲイン 2011」は、ビギナークラス（60分制限）・マスタークラス（180分制限）の2クラスに49人が参加されました。その際のアンケートには、「雪の森は直進、迂回、自由自在でオリエンテーリングをやったら面白いだろうと常々思っていた。実際は予想以上に面白かった。」という感想がある一方、「3時間のエリアとしては狭い」、「家族クラスは別に必要では？」という声がありました。

昨年の経験

この反省をもとに翌年の「スノーゲイン 2012」では、ファミリークラスを新設し、また、マスタークラスのエリアを少し拡大して参加者募集したところ、91名の参加者がありました。しかしながら、大会前週の雨のため、雪が固くなり、雪の上本来の感触がなく、ほぼ通常の陸上を走行することと変わりなくなりました。マスタークラスのトップは1時間50分でフィニッシュし、12チームエントリーの内8チームが満点となるなど雪質が大きく影響するものとなりました。一方、ファミリークラスについては、時間を競う競技性よ

り雪の中を楽しみたいという声もありました。



今年のスノーゲイン

3年目となる「スノーゲイン 2013」は、過去2度の反省を活かし、マスタークラスについて、さらにエリアを拡大する一方、ファミリークラスをエンジョイ・ファミリークラスと変えて、家族だけでなく文字通り雪の中を楽しみたい一般の方も対象に、60分の制限時間はあるものの競技性を薄めました。

大会直前に雨が降り、昨年を思い出しましたが大会前日には逆に雪が降りしきり、コントロール設置は大変でしたが設置する足跡も消すような積雪となりトレインコンデションは抜群となりました。ただ、雪が降りすぎたために雪崩や雪庇の拡大などの虞が出た為に当初予定よりエリアを縮小して開催することとなりました。

大会には、エンジョイ・ファミリークラス(制限60分)に13チーム43人、ビギナークラス(制限90分)に9チーム28人、マスタークラス(制限180分)に14チーム27人で合計36チーム98人が出場することとなりました。

大会前日の3月2日には希望者対象(参加者の7割程度)に地図読みやコンパスの使い方をはじめ、実際にスノーシューを履いてミニ体験会を開催しました。また、雪の上で行うことから、雪で覆われた水路や橋からはみ出した雪庇への注意、木の上からの落雪があることなどに対する注意喚起をくどいほど行い、翌日の大会に備えることとなりました。



はじけた笑顔

大会当日は、前日の吹雪から一転して晴れ間も見える天気となり、この3年間通して大会当日は天気が良い日が続き、前日も遅くまで地図調製を行うなどのスタッフの苦労が天気に反映したのだと思っています。クラスごとに時間制限の違いがあるためスタート時間も間隔をあけました。マスタークラスは真剣そのものの緊張感の中でしたが、ファミリークラスではスタート前に雪合戦が始まるなどとても和やかなものでした。



トレイン内には、狭いながらも危険な箇所もあり、フォーラムのスタッフも含め8人がパトロールにつきました。新雪が40センチほど積もりマスタークラスはふかふかの雪の中を進み、45コントロール獲得を目指して行き、ビギナーは30コントロールを、ファミリーは20コントロールを少し足跡が付いた中目指していきました。パトロールをしているとあちらこちらで賑やかで楽しい声が聞こえて来て、私たちパトロールスタッフもついつい笑顔が出るような状況でした。



大会終了後は、参加者それぞれに温泉に入ったり、昼食をとったりして表彰式に臨んで頂きました。ビギナー・マスタークラスについては上位3位の表彰と成績速報を配布し、ファミリー

クラスについては抽選で賞品を提供しました。30人を超える子ども達をはじめ多くの方が最後まで大会を楽しんでくれました。



大会後、フォーラムのスタッフと当協会のスタッフで反省会を開催しました。この3年間の反省が競技や運営レベルの向上をしてきたことが功を奏した大会になってきたことを評価する一方、エリア拡大に伴う危機管理の問題や当日受付参加者に対する説明対応など、新たな課題も浮き彫りとなり今後の課題としました。

3年間、極寒で積雪の多いエリアで大会を無事行うことが出来たのは、関係するスタッフの努力にもよることが大きいと思います。

残念なのは、2011、2012の大会に参加された静岡の堀本さんご夫妻が2月に西穂高岳で遭難され、姿を見ることができなかったことで非常に残念で辛いものでした。

(牧ヶ野敏明)

